



北海道ササ分布図

造林第二研究室 豊岡 洪
佐藤 明
石塚 森吉

ササ類は、日本特有のイネ科植物であって、主な分布は温帯北部より亜寒帯におよび、とくに北海道にはもっとも普遍的に分布する。

分布地域を大別すると、太平洋側の少雪乾燥地帯には、ミヤコザサ節、スズ(タケ)属のササが多く分布し、日本海側の多雪地帯および山地の高所には、チシマザサ節のササが分布する。クマイザサに代表されるチマキザサ節のササは、両者の中間地域に位置し、分布域がもっとも広い。

このようにササ類の生育地のすみわけや、各々の個体群が示す生活様式の違いは、生態学的知見として重要であるばかりでなく、林業上、とくに立地環境、更新問題を論議するうえでの指標的価値が大きい。また、バイオマス変換計画においては、このササ植物が未利用資源として、また、豊かな資源と大きな生産力をもっていることに着目し、これの生産力を向上させる技術の確立と、効率的に活用する技術開発の研究が進められている。

ササ分布図は以上のような背景のもとに、昭和51年から、各関係機関の協力をえて調査が行われた結果、昭和58年1月に全道を5地域に分割した縮尺20万分の1の分布図ができあがり、すでに公表されている。

ここでは北海道のササ分布の全体的な把握と、その特徴をより明確に捉えることができるように、全道を1葉とした縮尺60万分の1の分布図に編集したものである。

なお、ササ分布の詳細については「北海道ササ分布図」、林業試験場北海道支場、1983年をみていただきたい。

新技術情報 No.10

昭和59年1月31日 発行

林業試験場北海道支場

札幌市豊平区羊ヶ丘1番地

北海道ササ分布図

